

令和2年度 第2回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 令和2年10月23日(金) 第2回帯広市健康生活支援審議会終了後
19:40~20:20
2. 場 所 帯広市役所 10階 第2会議室
3. 出席委員 稲葉 秀一部会長、大滝 達哉 副部長、川上 義史委員、宇野 雅樹委員、
佐々木 修一委員、
住谷 晋 専門委員、澁谷 真由美 専門委員、小岩 幹専門委員、
車谷 香織専門委員

事務局：五十嵐参事、山中課長補佐、村上主任

4. 会議次第

- (1) 前回、前々回会議の議事録(案)の確認
- (2) 令和元年度 健康推進課決算について
- (3) 令和元年度 保健事業について
- (4) 令和元年度 休日夜間急病センター実績について
- (5) その他

5. 会議内容

○事務局

みなさま、こんばんは。定刻となりましたので、ただ今から、令和2年度第2回地域医療推進部会を開会いたします。

地域医療推進部会、委員9名全員のご出席をいただいております。本日の部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。

●部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に、前回会議の議事録の確認についてを議題といたします。この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

【質疑なし】

●部会長

よろしいでしょうか。無いようですので議事録は了承されたものといたします。次に、「令和元年度健康推進課関係決算(案)について」を議題といたします。事務局から説明願います。

○事務局

令和元年度 健康推進課決算の概要について、ご説明させていただきます。

総事業費は10億2,806万4,194円でございます。

内訳ですが、まず資料左側、「保健衛生総務費」は決算額3億1,366万8,949円となっております。

主な事業といたしましては、「保健衛生推進費」として、健康まつりの運営費の負担、難病連十勝支部の事業への補助、健康づくりガイド作成、AED 賃貸借、心身障害者歯科治療費補助などのほか、「食・運動改善推進費」として、食生活改善推進員と健康づくり推進員の養成及び育成、各種教室の開催等、また、「公衆浴場対策費」として、市内の公衆浴場の確保と活性化のための各種事業への補助、ふれあい銭湯事業補助等を実施いたしました。

次に「訪問看護促進費」として、北海道総合在宅医療ケア事業団の会費、「健康増進センター管理費」として、大正と川西の健康増進センターの運営管理、「看護師等養成機関確保対策費」として、十勝管内19市町村で運営している高等看護学院の運営費分担金、市内に2箇所ある看護師養成機関に対する補助等、「帯広厚生病院運営費補助事業費」として、管内19市町村による帯広厚生病院の運営支援、すこやかネット事業、などを実施しました。

次に、資料中央の「予防費」につきましては、決算額5億2,628万4,971円となっております。

主な事業といたしまして、「がん検診、健康診査費」として、各種がん検診、肝炎ウイルス検診、市民健康診査、骨粗しょう検診等に要する経費など、「予防接種費」として、各種定期の予防接種費用、「感染症予防費」として、65歳以上の高齢者等及び中学3年生、高校3年生に対する季節性インフルエンザ予防接種、65歳以上5歳刻みの高齢者等に対する成人用肺炎球菌ワクチン予防接種、エキノコックス症検査を実施しております。また「結核予防費」として、結核検診、「健康相談費」として、保健師や栄養士などによる相談、「健康教育費」として、各種健康講座、スマートライフプロジェクトの推進を行いました。

また、「自殺対策事業」として、生きるを支える連携会議の開催や、総合相談会の実施、「訪問保健指導費」として、保健師の個別訪問による保健指導、などを実施しました。

次に、「夜間急病診療費」は、決算額1億4,745万5,442円でございます。

主な事業といたしましては、まず「休日夜間急病センター管理運営費」として、指定管理による休日夜間急病センターの管理運営を行っているものです。平成29年度から利用料金制が導入され、平成28年度までは市の歳入となっていた診察料は、指定管理者が収納し運用されております。

次に、「救急医療対策費」として、在宅当番、二次救急医療、休日歯科診療業務、急病テレホンセンターなどの運営の委託、小児救急医療の補助を行ったものです。

最後に「保健福祉センター費」は、決算額4,065万4,832円となっております。「保健福祉センター」の管理運営に要する費用でございます。

数字横の、矢印表記につきまして、前年度決算対比での増減を表しております。細い矢印の、5%未満の増減につきましては、前年度とほぼ同様のため、説明を割愛させていただきますが、太い矢印の5%~10%未満と、10%以上の増減につきまして、ご説明いたします。

まず、左上の「看護師等養成機関確保対策費」につきましては、6.3%の増となっております。こちらは、帯広高等看護学院の経費は、十勝圏複合事務組合への負担金としているものであり、組合の人件費の増等によるものとなっております。

次に一つ下の、帯広厚生病院運営費補助につきましては、約18.7%の増となっております。こ

ちらは、病院の移転に伴い運営費補助の対象となる、MFICU やNICU などの病床数が増えたことや、特別交付税単価の増により、補助額が増えたものです。

次に、中央、がん検診・健康診査費については、7. 6%ほどの減となっております。こちらは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、集団検診を3月より中止したことにより、受診者数が減ったことによるものです。

次に、予防接種費については、8. 3%ほどの増となっております。

こちらは、日本脳炎ワクチン接種者数の増などによるものです。

次に、感染症予防費については、6. 4%ほどの減となっております。

こちらは、高齢者の肺炎球菌ワクチン接種者数の減によるものです。

次に、結核予防費については、31%の減となっております。

こちらは、先程がん検診・健康診査費についても、説明させていただきましたが、集団検診を3月より中止したことにより、受診者数が減ったことによるものです。

次に健康教育費については、10%の減となっております。

こちらは、リラクゼーション室廃止に伴い、リラクゼーション機器の賃貸料が無かったことによるものです。

次に自殺対策費については、110%の増となっております。

こちらは、中学生向1年生向けに作成した「SOSの出し方教室」に活用する教材の配布、及び関係機関・団体を対象とした多分野合同研修会の開催の増加によるものです。

次に、右側の、休日夜間急病センター管理運営費につきましては、平成30年度はインフルエンザの流行による患者数の増加により、診療報酬が増えましたが、指定管理者が公益財団法人である性格上、運営において利潤が生じないよう、指定管理料の一部返還があり、令和元年度も返還額がありましたが少額であったため、前年度対比としては、大きく増加して見えるものです。

最後に、救急医療対策費については、6.8%の増となっております。

こちらは、二次救急医療体制の確保のため医療機関において輪番制で行ってしておりますが、令和元年度は大型連休による休日の増や、支援病院の当番回数の増による委託料の増によるものとなっております。以上、令和元年度決算の概要でございます。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

●委員

集団検診を3月から中止しているとのことですが、今後についてはこれからの状況を見ながら決めていくのでしょうか。

○事務局

前年度の3月は集団検診を中止しましたが、6月より3密等の感染症対策の体制を取りながら再開しております。

●委員

食生活改善推進委員の育成・養成について、本会議の資料でありましたが、新たに養成したのが2名ということでしょうか。

○事務局

単年度に、養成した人数になります。

●委員

食生活改善推進委員の方々は、どのような場所で活動されているのですか。

○事務局

食生活改善推進委員は、地域の小集団に出向いて活動しており、例えば食育の話しや、男の料理教室を主催しております。

●委員

高齢者中心の場合はフレイル対策だったり、壮年期の場合は生活習慣病に対応したり、一般介護予防事業と健康で、棲み分けはしているのですか。

○事務局

ボランティア活動で、特別対象者を絞ったり棲み分けは行っていません。

●委員

老人サークルが多くなると指導の仕方が変わってくるので、双方向から要請・指導できる体制があると良いと思います。

●部会長

後は、いかがでしょうか。

次に、「令和元年度保健事業について」を議題といたします。

事務局から、説明願います。

○事務局

令和元年度保健事業についてご説明いたします。

資料2の1ページ目の「1. 保健福祉センターの利用状況」をご覧ください。

(1) 事業等の利用状況であります。表の一番下に記載しています合計数の利用者の推移をご覧ください。平成30年度に比べ、令和元年度は利用件数で約14%、利用者数は、約18%の減となっております。主な要因につきましては、新型コロナウイルスの影響により、予定していた事業の中止等により、利用者数の減となっております。

(2) 各種相談の利用状況では、相談内容により、多少の増減はありますが、合計では、例年より352人の減となっております。

次に、「2. 感染症などの予防」をご覧ください。

予防接種の実施状況は、ご覧のとおりとなっております。接種率につきましては、後ほど資料2-1でご説明させていただきます。

(2) 結核検診の実施状況につきまして、X線検査の受診者数は、新型コロナウイルスの影響より、3月に集団検診を中止したことにより減っております。

次に、2ページ目をご覧ください。

- (3) 成人用肺炎球菌予防接種は、平成26年度10月から定期接種化され、65歳以上5歳刻みの年齢の高齢者を対象に実施しております。令和5年度まで経過措置が延長されたため、70歳以上の方は、2巡目の接種機会にあたることから、既に接種済みの方も多く、令和元年度の接種件数は1,578件で、前年度と比較して、2,184件の減となっております。なお、対象年齢がわかりづらいこと等から、対象者へは個別に周知しています。

こちら、接種率につきましては、後ほどご説明させていただきます。

- (4) インフルエンザ予防接種の状況ですが、中3、高3と65歳以上の高齢者等に対する接種事業を実施し、実績は記載のとおりとなっております。こちら、接種率につきましては、後ほどご説明させていただきます。

- (5) エキノコックス症検診の実施状況については、小中学生については、ほぼ横ばい、一般については、平成29、30の2か年で見ると減少傾向でございますが、平成28年度と比べると、増加しております。

お手元に配付の資料2-1をご覧ください。

まず、子どもの定期接種につきまして、

BCGは、新型コロナウイルスの影響により3月の集団接種を中止したことから、接種者数、接種率ともに減となりました。

生後の早い時期に接種を開始する、四種混合、ヒブ、小児用肺炎球菌、B型肝炎については、安定して高い接種率を維持しております。

麻疹風疹ワクチンは、1歳児と年長児が対象となっており、受診勧奨はしているものの、接種率は前年度と比較して5.7ポイントの減となりました。なお、今年度4月から8月までの接種件数は、前年同期に対して16%の増となっております。

HPVワクチンの延べ接種者は、29人で、実人数としては、11人となっております。伸びた要因としましては、姉妹での接種により、接種者の増につながったことや、前年度は、厚生労働省や日本産婦人科学会でも動きがあり、報道などで取り上げられる機会が多かったことによる影響もあったものと捉えております。

日本脳炎ワクチンは、特例期間にある小学校高学年に勧奨を行ったことにより、接種者数が大幅に増加しました。また、二種混合の接種者数も増っており、日本脳炎ワクチンと対象者が重なることによる相乗効果があったものと考えられます。

中段のB類予防接種につきまして、高齢者の肺炎球菌は、65歳以上5歳刻みの年齢で、過去に1度も肺炎球菌ワクチンを接種したことがない方が定期接種の対象となっておりますが、令和元年度は、平成26年度の事業開始から6年度目にあたり、過去に接種歴のある方が対象から外れることから、対象者数、接種者数ともに、前年比減となりました。

高齢者のインフルエンザにつきましては、高齢者人口の増により、対象者数、接種者数ともに、年々増加傾向にあります。

更に令和元年度は、全国的に異例の早さでインフルエンザが流行し始め、十勝でも10月から感染が拡大し、新聞やニュースでも度々取り上げられていたため、予防意識の高まりにより、接種者が増えたものと捉えております。

下段の任意接種につきましては、受験生を対象としたインフルエンザワクチン接種費用の助成については、少子化の影響により対象者数は減少傾向にありますが、接種率は33%前後で推移しております。資料2-1の説明は、以上でございます。

資料2の2ページ目中段、「3. 生活習慣病の予防」へお戻りください。

(1) 健康教育の実施状況では、実施回数は増加しておりますが参加人数が減少しております。介護予防サークルからの依頼が増えております。

(2) 健康づくり講座・教室につきましては、からだスッキリ講座、健康づくり教室は、事業の見直しや新型コロナウイルスによる中止により実施回数と人数が減少しております。なおこの2つの事業に関しては、参加者が継続者に偏っており、新規参加者が少ないという現状と、年齢構成では65歳以上が86.4%を占めており、今後は地域の介護予防サークルや介護予防事業に誘導し健康づくりの推進をすすめることとして、令和元年度をもって廃止しました。

リラクゼーション事業につきましては、平成30年度をもって事業を終了としております。

特定健診特定保健指導対象者や糖尿病有所見者、健康づくり教室参加者を対象にした運動支援については、参加期間の短縮などの事業の見直しや新型コロナウイルスによる中止により実施回数と人数が減少しております。また、糖尿病重症化予防の保健指導につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、年度末にかけて面接・訪問を実施することができなかつたため、実施人数が減少しております。乳がん子宮がんキャラバンにつきましては、企業への周知により、実施回数、人数が増加しております。

(3) 健康相談については、新型コロナウイルス感染症に伴う健康相談の増加傾向となっております。

(4) 訪問指導につきましては、実訪問者数・延べ訪問者数ともに、ほぼ横ばいとなっております。

(5) 検診の実施状況であります、受診者数は、ご覧のとおりとなっております。受診率につきましては、この後、資料2-2でご説明させていただきます。

お手元に配付の資料2-2をご覧ください。

がん検診については、前年度と比べると、受診率が減となっております。

主な要因につきましては、新型コロナウイルスの影響により、3月の集団検診の中止等により、受診者数の減となっております。

右端には、新型コロナウイルスの影響がなかった場合と想定して、3月の受診者数を昨年度実績に置き換えてみたものの、受診率となっております。

その場合、前年度と比べると、受診率のおおきな変化はないものとなっております。

資料2-2の説明は、以上でございます。

資料2の3ページ目 (6) 35～39歳健診(市民健診)・健康診査の保健指導にお戻りください。

(6) 35～39歳健診(市民健診)・健康診査の保健指導は、記載のとおりとなっております。

(7) 検診・検査の実施状況検診事後指導については、平成30年度から、文書による受診勧奨を含めているため、平成29年度と比べ増となっております。また、令和2年12月健診受診分の受診勧奨から新型コロナウイルスの対応として、受診勧奨値に関する病院受診をしていることが確認された対象者は受診勧奨から除外したことで、3月の集団健診を中止したことにより、平成30年度と比べて実施数が減となっております。

4. 「自殺対策」につきましては、関係機関や団体等を対象に相談者へのアプローチ方法や家族支援に関することをテーマに、多分野合同研修会を開催いたしました。また、若年層への対策として「SOSの出し方教室」において活用できるよう、ストレス対処方法や相談窓口を掲載している教材を作成し、市内中学1年生を対象に配布いたしました。

最後に、「5. 救急医療体制に関する実施状況」であります、

帯広市では、夜間・休日等における医療不安の解消と急病者に対処するため、休日夜間急病セ

ンター運営事業や、医療機関の協力をいただき、在宅当番医制や二次救急医療体制を確立しております。利用状況等につきましては、ご覧のとおりです。

このうち、(4) 急病テレホンセンター案内状況の合計では、1,784 件が減少しておりますが、スマートフォンで医師会のホームページから情報を得ている方が多くなっていることが考えられます。令和元年度保健事業についての説明は、以上でございます。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

●委員

予防接種のBCGで、3月の影響で減ったということは解りますが、その方々は3月以降にずれてもできますよね。

○事務局

7月より個別接種を実施しており、接種が遅れていた方の分は解消されているものと考えております。

●委員

麻しん・風しんは89.4%で凄く下がっているのが問題で、多少遅れても2歳になる迄に受けてもらえばよいですが、年長さんは年度末迄に受けないといけなくて、1歳児と年長さんの割合を解っていれば教えて貰いたいです。

○事務局

まず、一歳児は91.2%、年長児は87.8%、平均で89.4%でございます。

周知につきましては、できることは行ってまいります。

今後更に第2期の関係で保育園とかに協力をお願いしながら、周知・啓発には努めて参ります。

●部会長

札幌市では、小学生でも補助していますよね。

第2期を、就学前で区切らないで、1年ぐらい延長するとか、打たなかった人に補助してあげることも大切ではないのかなと思います。

●委員

がん検診等は、市民が対象で歯科検診は帯広市国保の方だけということで、全市民対象として欲しいのですが、ネックは何なのでしょう。

○事務局

歯科検診については、各市の調査等を行っているところであります。

まずは国保の歯科ドックの受診率を上げていく取り組みを行っているところでございます。

●委員

ぜひ全市民対象というかたちに、健康のために広げてもらうのがいいのかなと思います。

●委員

生活習慣病の予防の健康教育は、年齢、性別も別々の方が来るところであります、内容としては同じことを話しているのでしょうか。

○事務局

内容としては、同じ話はしていなく、生活習慣病予防の話であったり、感染症予防の話であったり、ニーズに応じて対応しております。

●委員

今後の方針として、一般介護予防事業との連携とか、広域的に取り扱いしていくとか、統合していく考えとかはあるのでしょうか。

○事務局

国の方針もそのような動きになっていて、来年度は健康推進課、介護予防を担当している地域福祉課と考えながら、今後の事業の展開について検討していきます。

●委員

議員さんで食育条例を作る話を聞いていて、その後条例が出来たときに、どのような施策を作っていくのか、食育に健康も含めて、そこに歯科も絡ませて考えていただければと思っています。

●部会長

他になければ、質疑を終了いたします。

次に、「令和元年度帯広市休日夜間急病センター実績について」を議題といたします。

事務局から、説明願います。

○事務局

お手元に配付の資料3をご覧ください。

休日夜間急病センターは、平成26年度に新築移転し、休日と夜間の初期救急を指定管理により運営しています。令和元年度の患者数の実績につきましては、夜間は、年間合計で6,301人と、前年度の約94%、下段の休日にきましては8,711人で、前年度の約93%となっております。

夜間・休日共に患者数の減少につきましては、新型コロナウイルスの影響による、受診控えによるものが、主な要因となっております。

休日夜間急病センターの運営にあたっては、「運営専門会議」を設置しており、継続的に検討協議を行っております。説明は、以上でございます。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

●委員

患者数が減ると、お金が減らされたりすると思いますが、急病センターは機関の基礎を支えているところなので、人員の配置など、人数が減ったので減らしましょうと、ならないよう望みたいので、

よろしくお願いいたします。

●部会長

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

●部会長

次に、その他について、委員の皆様から何かありますか。

【質疑なし】

なければ、事務局からお願いします。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程につきましては、例年2月に予算等をご説明するため審議会の日程と併せて設定させていただいているところであり、具体的には稲葉部会長と調整のうえ、委員の皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

●部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。

本日は、これで閉会といたします。

お疲れ様でした。